



東京コラリアーズ

東京コラリアーズは、日本で最初の「聴かせるための」合唱団として、1952年2月畑中良輔、福永陽一郎の両氏によって結成されました。東京混声合唱団とともに、数少ない職業合唱団であり、日本で唯一の男声合唱団であります。メンバーには優秀な若手声楽家に加えて、最高のレベルにある、各大学の合唱団の指揮者、パート・リーダーであったベテランを多数加え、優れた合唱力を備えております。レパートリーは宗教曲、芸術歌曲から世界民謡、ポピュラーソング、ヒットソングなど300余曲りを保有し、オーソドックスな解釈と、効果的な新しい編曲で合唱界に強い影響を与えています。

福永陽一郎紹介

1926年生れ。東音本科ピアノ科中退。ピアノを井口基成、豊増昇両氏に師事。東響ピアニストとして在籍中、近衛秀磨氏に指揮法、作曲法、管絃楽法を学ぶ、藤原歌劇団でM・グルリット氏の助手をつとめ、合唱指揮者、副指揮者を経て、1955年常任指揮者となる。1956年藤原歌劇団第三次アメリカ公演に参加、アメリカ、カナダの33都市での「お蝶夫人」[「ミカド」]公演を指揮。帰国後、スタッフ・クラブに加入。二期会の客演指揮者としても活躍。オペラのレパートリーは35を数えスペシャリストとしての頭角をあらわしている。1952年畑中良輔と東京コラリアーズを設立、日本で第一級の職業合唱団を育てあげた。更に学生の合唱運動に大きな関心を持ち各地の大学で指揮している。